

しらかわの 身近な文化財

第二十四話

お寺の鐘

寺院の境内には、たいていの場合屋根つきの「鐘楼」という建物があり、鐘が吊り下がっています。かつては朝夕の時報を告げていたこともありましたが、今は参拝者が鳴らす場合を除いては、除夜の鐘など特別な場合に鳴らすことが多いようです。

寺院の鐘のことを梵鐘とい、銅でつくられることから銅鐘ともいいます。その歴史は古く、国内最古の鐘は奈良時代にまで遡ります。

市内で最古の鐘は、鹿嶋神社（大）境内の観音堂の軒に吊り下げられていた天文13年（1544）のもので、県指定文化財となっています。

鐘にはたいていの場合「銘文」が刻まれており、いつ誰がどういう経緯で納めたかが記されています。この鐘の銘文を見ると、白河を治めてい

た結城家の義綱・晴綱父子や一門、家臣たちが共同で奉納したことが分かります（現在、市歴史民俗資料館に展示）。

他にも、龍蔵寺（年貢町の鐘は元禄4年（1691）に白河藩主松平忠弘が、関山満願寺（関辺）の鐘は寛文4年（1664）に白河藩主本多忠平が、それぞれ寄進したもので、いずれも国の重要美術品となっています。これ以外にも、江戸時代に遡る鐘は市内に多くあり、白河の歴史の名残をとどめています。

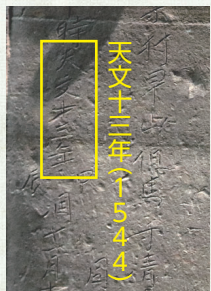
一方で、火災などの災害や、戦時中の「金属類回収令」により失われたものもあります。このように、地域のお寺の鐘も歴史の資料といえます。

お寺を訪れた際には、鐘やその銘文を探してみてもいいのではないでしょうか。

文化財課 ☎2310



▲銅鐘（最勝寺）
（龍蔵寺所蔵、歴史民俗資料館寄託）



▲銘文（部分）

ものの忘れの違い

老化によるもの忘れと認知症によるもの忘れには次のような違いがあります。

老化によるもの忘れ	認知症によるもの忘れ
加齢による自然な現象	病気などにより脳の機能が障害される
体験したことの一部を忘れる	体験したことを丸ごと忘れる
ヒントがあると思い出せる	ヒントがあっても思い出せない
あまり進行しない	だんだん進行する
自覚している	あまり自覚がない
日常生活に大きな支障はない	日常生活に支障をきたす

老化によるもの忘れには、繰り返し書くことや何度も口に出すこと、メモをとる習慣を身につけることなどが有効です。



高齢者

Vol.67

あったか広場

高齢福祉課高齢者支援係 ☎5519

認知症によるもの忘れへの対応

認知症によるもの忘れの場合「忘れたこと」は「体験していないこと」になるため、忘れてしまっているときは、その出来事から意図的に気をそらせることがポイントです。

例えば、食事後に「ご飯はまだ？」と聞かれた場合「少し時間がかかるから、それまでテレビでも見ててね」などと声をかけることで、テレビに意識が向き「食事」へのこだわりを和らげることができます。